城下町巡りのすすめ

何気なく通るあの道も、見慣れたあの建物も
歴史を紐解くとこれまで知らなかった魅力に気づくはず。
今年築城400年を迎える八代のシンボル、「八代城」。
歴史の中にあるストーリーを紡ぎながら、今の城下町をご紹介します。
当時の人々に想いを馳せ、物語に想像を膨らませながら、
何にも代えがたい魅力満載の城下町巡りを
ごゆるりとお楽しみあれ。

●参考資料／『八見伝』『ここほれ！八代』 ●写真提供／八代市教育委員会

城下町の見どころ

八代の“シンボル”がたくさん!!

本町商店街は【薩摩街道】だった！
薩摩街道は江戸から薩摩国への主要街道。現在でも主要道路としての機能が残っていますが、現存するアーケード商店街を通る薩摩街道は、今や全国でも八代だけ！ 現役十字八代リハビリテーション病院の敷地が「御客屋」にあたり、駕姫（江戸幕府第13代将軍・徳川家定御台所となった人物）も宿泊したといわれています。

【妙見祭笠鉾全九基】が生まれた町
2021.11月号で紹介した妙見祭笠鉾。全九基はすべて城下町エリアにある町から奉納されています。当時より八代の中心部としていかに栄えていたかがわかります。

【神社仏閣】の密集エリア
城下町エリアは30を超える神社仏閣の密集地。歴史ある神社仏閣の多くは、古麓城下→麦島城下→現在の場所へと移転しています。創建年代不明も多く、平安時代中期に建てられたと伝わるものもあります。

車の運転は【一方通行】に注意！
城下町らしく昔ながらの基盤の目になった小径は、車一台がようやく通れる幅の道が多いため、一方通行の表示を見逃さないようにしましょう。車も通れない風情ある通りも今なお残っているので、ぜひ散策してみて♪

【名建築】の集積地
世界的建築家・芦原義信氏による設計の「八代市厚生会館」をはじめ、伊藤豊雄氏による設計の「八代市立博物館未来の森ミュージアム」「ギャラリー8」など、建築を学ぶ学生や関係者にとって、近代の名建築散策ができる大変価値のあるエリアです。

キリシタンゆかりの地ゾーン

キリシタン大名として名を馳せた小西行長や、日本初の殉教者の一人である行長の家臣の妻・竹田アグネスなど、八代は古くからキリシタンとも繋がりの深い地域です。キリスト教を通して八代の歴史を振り返ると、教科書では語られていない違った側面が見えてきますよ。

カトリック八代教会

1873年（明治6年）のキリシタン禁制撤廃後、熊本県に初めて派遣されたカトリック宣教師のコール神父が創設。鉄筋コンクリート造の白い外壁とステンドグラスが特徴です。

殉教者の碑

1603年（慶長8年）、江戸時代で最初の殉教者となった南五郎左衛門など11人が殉教した八代。2008年には八代の殉教者を含む188人が、ローマ法王庁より福者※に列せられています。

※福者…殉教によりその生涯が聖性に特徴づけられたものであったことを証してつけられる敬称。

シャルトル聖パウロ修道院記念館

白と水色を基調としたレトロな外観がかわいい西洋建築の記念館は、建設当時の姿のまま現存しており、2000年に国の登録有形文化財になりました。八代修道院は孤児院や病院・女学校などを建設・創立し、八代市の福祉や教育の分野で大きな役割を果たしてきました。

金立院のキリシタン墓碑

市指定有形民俗文化財。丸い暮石の面にうっすらと十字架が描かれています。寝棺型状碑（俗称：カマボコ型）のキリシタン墓碑は県内でも類例がなく、大変貴重な文化財だそう。

河童伝説ゾーン

のんびりと散策するのにぴったりな球磨川沿いには、河童にまつわる石碑や像が多く点在しています。八代の河童伝説の謎を紐解くと、河童とのユニークなお話や大切な約束を知ることができます。このエリアを中心とした球磨川沿いで、河童たちと戯れてみて！

河童の像

本町三丁目にある大きな河童の像は、重さ約600キロ！ 毎年8月の第一土曜日に開催される『八代くま川祭り』の際、八代市消防団の勇ましい団員が担ぐ神輿の上に乗せられます。

河童渡来の碑

大きな石を二つ組み合わせた河童渡来の碑は「ガラッパ石」と呼ばれ、人々は河童にこの石が磨り減るまで悪戯をしないことを約束させ、その代わり毎年5月18日に『オレオレデーライタ川祭り』という河童を祀る祭りを行なうこととなった、と記されています。

その他の河童たち

壁画『河童祭明編』

河童九千坊音頭像

日本一の河童座像

相撲を取る河童の像

【河童伝説】について

中国から海を渡ってきた河童の一族がたどり着いたのが「徳淵津」（本町三丁目前川橋辺り）。その後一族は繁栄し、数が9千匹になりその頭領を“九千坊”と呼ぶようになったとか。

河童たちは悪戯好きだったそうで、それに怒った加藤清正は九州中の猿に声をかけ、河童たちを懲らしめました。

芸術・文化・建築ゾーン

地震によって崩壊した麦島城。一国一城の時代にあっても、幕府からの特別な許可によって八代城として再建を果たしたのが1622年（元和8年）のことでした。このエリアは、八代城にゆかりの深い場所や、価値ある近代建築がみられる一帯です。

八代市立博物館 未来の森ミュージアム

きれいに整備された芝生や木々の中に近代的な印象の建物が見事に調和した同館は、松井家所蔵の美術品などを中心に、八代の過去から現在までの文化や歴史を紹介しています。

八代市厚生会館

1962年に熊本県初の公共ホールとして建設された同館は、時代を彩る数多のスターが舞台に立った八代の文化芸術の中心地です。2019年からホールの利用は停止されていますが、2021年にはDOCOMOMO※日本支部が選ぶ243番目の「日本におけるモダン・ムーブメント建築」に認定されるなど、建築物としても高い評価を得ています（現在閉鎖中）。

※DOCOMOMO…モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織

お祭りでんでん館（八代市民俗伝統芸能伝承館）

2021年7月31日にオープンした「お祭りでんでん館」は、ユネスコ無形文化遺産「八代妙見祭」をはじめとする八代市の民俗伝統芸能の展示と保存、継承を目的に建設されました。市内の各地域の人々が大切に守り継いできた文化や芸能を知れるスポットです。

松井神社

細川家家臣の松井康之とその次男・興長が祀られている神社で、1881年（明治14年）に創建されました。かつては八代城北の丸であり、八代市中心部にありながら緑が多くホッと心休まる場所です。

臥龍梅〜がりょうばい〜

2月中旬から3月にかけて見頃を迎える臥龍梅は、熊本県の天然記念物に指定されています。「八代から百花の魁※となる人材出でよ」と念じて植えられたと言い伝えがあります。

※百花の魁（ひゃっかのさきがけ）…時代を先駆ける優れた人物のこと

八代城〈八代城跡公園〉

今年築城400年の「八代城」。石灰岩を用いて造られた石垣から白鷺城とも呼ばれています。現存しているのは築城当時の本丸部分で、当時の入口は八代市役所側でした。八代城南側の入口は、八代宮建設時に石垣の一部を取り崩して造られたものです。

南側から見た入口。奥には八代宮本殿があります

松浜軒

国指定名勝「松浜軒」は、第5代八代城主・松井直之が母崇芳院尼（すうほういん）のために建立した茶庭。5月から6月にかけて美しい肥後花菖蒲が咲き誇ります。建立当時は八代海を望む浜辺にあったことから松浜軒と名付けられました。